

## 第1回広域連携ワーキンググループ 各市町村等の広域連携の取組の状況と課題について

団体名	項目	要旨
いわき市	F-REIとの連携体制について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市政企画課と産業みらい課にF-REI連携企画官を配置（令和5年4月）。</li> <li>・F-REIの周知や連携を希望する企業等や技術等の掘り起こしのため積極的に企業訪問等を実施。状況に応じ、F-REI等につないでいる。</li> <li>・これらの取組みに加え、企業等が常時・直接F-REIにアクセスできるルートがあれば、より一層取組みが推進されるものと期待。</li> </ul>
田村市	F-REIとのパートナーシップ	<p>現状の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究公募に係る実証地の相談1件について調整中。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・学校・行政それぞれの役割と、F-REIとどのように連携出来るのかという情報が伝わっていないこと。</li> <li>・今後、研究・実証にいかに関地域の民間企業等を巻き込み、F-REIとのつながりを作っていくか。</li> </ul>
南相馬市	連携の現状について	<p>市町村座談会、トップセミナー、MOU締結のほか、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南相馬市内の経済・産業団体とのF-REI役員による説明会・意見交換会の実施に向けた調整</li> <li>・農林水産分野をはじめとした、研究活動推進に際しての複数団体に対する伴走支援の実施</li> <li>・南相馬市主催の「福島イノベーション・コースト構想の推進に関する勉強会」において、F-REI山崎理事長による講演会の実施</li> <li>・第41回日本ロボット学会学術講演会において、南相馬市が開催したランチョンセミナーに野波ロボット分野長に登壇いただき、パネルディスカッションを実施</li> </ul>
	連携に向けた課題について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域連携WGについては、「研究開発・産業化・人材育成の取組におけるF-REIを核としたパートナーシップによる広域連携体制の構築を図る」ことを主な任務としているが、連携体制を構築し、F-REIが目指す姿の実現に加え、浜通りや福島の創造的復興の実現に向けた地域一体となった取組みを進めていくことが極めて重要と考える。広域連携による取組みを進めるうえで、F-REIが市町村に何を望むのか、何を期待しているのか、連携の具体的な内容などを明らかにして議論を進めていくことが重要と考える</li> <li>・地域住民や関係団体に対しては、F-REIの認知度や参画意欲の向上につながる取組が必要であり、南相馬市としては、F-REIの協力を得ながら「勉強会」や「関係団体との意見交換会」等を継続的に実施していきたい</li> </ul>
川俣町	福島国際研究教育機構の研究公募における現場実証地等の市町村相談窓口について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町窓口には相談は1件もない状態。</li> <li>・F-REIの相談窓口がわかりにくいと、企業側でも興味があったとしても相談することができていないのではないかと考えられる。</li> </ul>
檜葉町	連携の現状について	<p>○F-REIの4つの機能、5分野の研究テーマは示されたものの、具体的な研究内容等は今後示されるとのことなので、現時点では大きな動きはないが、F-REIが中心となり、地域に根差した取り組みが推進され、広域的な連携に発展することを期待している。</p>
	連携に向けた課題について	<p>○町内に立地している企業でF-REIの取り組みに参画を希望している企業がある。連携して研究開発を行い産業化へ繋げるためにも、F-REIの活動に柔軟に参画できる産学官が連携した体制の構築を希望する。</p>

団体名	項目	要 旨
大熊町	F-REIとの連携状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大熊インキュベーションセンター（起業者やサテライトオフィスが入居）から、町企画調整課を介さない形でF-REI事業への申請あり（センター運営会社から情報共有）</li> <li>・町の主管課（企画調整課）で現在関与している事業は“リビングラボ”（周辺環境整備事業）のみ。</li> <li>・今後の連携に向け、地域外の大学等と連携を強めているところ。</li> <li>・F-REI事業のうちどういった事業が活用できるのか、分かりやすい形にかみ砕いたメニュー表が必要。</li> <li>・簡易に情報をまとめ、自治体向けに発信を。</li> </ul>
双葉町	地域全体への波及に対する期待について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、F-REIに関係した企業等との連携のような話は出てきていない。</li> <li>・F-REI座談会は来年1月下旬に実施をする予定。</li> <li>・一方、復興がまだスタート段階であることや住民、企業が十分に戻り切っていない中、F-REI関係の案件はハードルが高いのも事実であり、復興が比較的進んでいる自治体との連携に偏ってしまうことを懸念している。</li> <li>・設立の理念通り、地域全体に裨益するものとなるよう目配りしていただくことを期待したい。</li> </ul>
浪江町	F-REI活動支援	<p>≪主な取組≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町にF-REIの整備・活動を支援するため、市街地整備課F-REI立地室を設置（令和5年4月）</li> <li>・将来的なF-REI活動の円滑化のために生活環境が重要となることから、F-REI周辺のまちづくりに関する基本構想策定中</li> </ul> <p>≪課題≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携を進めて行くにあたりF-REIから、現状と将来の需要を把握したい。</li> <li>・F-REI職員等に浪江町を知っていただくための町内ツアーなども可能である。また、近隣自治体とも協力して取り組んでまいりたい。</li> </ul>
葛尾村	F-REI 連携窓口への要望受付状況  F-REIとの連携を進める上で見えてきた課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛尾村復興推進室に窓口を設置（令和5年4月）</li> <li>・東京都内の大学からF-REIの研究公募における研究栽培、試験栽培の現場実証地としての可能性について相談があった。今後、村としてどのように協力できるか検討中。</li> <li>・村内の事業者からF-REIとの連携について具体的な相談はないが、連携に意欲的な事業者は存在するため、今後、具体的な相談があった場合は、速やかにF-REIにつなぐ。</li> <li>・村内での認知度はまだまだ低いと思われる。村内事業者がどのような関わりができるのか、具体例を示しながら、認知度を上げ、連携の可能性について相談いただける仕掛けなど工夫が必要ではないかと考える。</li> </ul>
新地町	F-REIの取り組みを浜通り地域の未来課題の解決及び魅力創出にどうつなげていくか	<p>取り組みの現状としては、F-REI自体の名称は報道等で紹介され周知されてきていると思いますが、活動内容等の認知度はまだ低いと思われます。町としても独自にPRしていないためか企業等から連携要望の問い合わせは来ていない状況。</p> <p>F-REIの取り組みをどう活用できるか地域住民、地元企業等とともに町としても考えていきたいが、そのためには地域住民、企業等関係者に広くF-REIの取り組みを周知していく必要があると考えています。</p>

団体名	項目	要旨
福島県	福島県における広域連携に向けた取組	<p><b>【コーディネーター設置】</b>  ・F-REIと各市町村、企業、研究機関、大学、教育機関等との連携促進のため、イノベ機構にコーディネーターを設置。（2名、F-REI広域ネットワーク形成推進委託事業）</p> <p><b>【情報発信】</b>  ・F-REI、イノベ機構と協力し、関係団体を対象とした勉強会等において、F-REIやイノベ構想に関する情報発信を実施。（5件）  ・県民及び関係者へのF-REIの認知度向上のため、県の媒体等（広報誌、テレビ番組、県主催展示会、県有施設等へのF-REIポスター掲示）を活用した広報を実施。</p> <p><b>【理解醸成】</b>  ・県庁内への周知及び関係者からの問合せへの対応強化のため、県庁職員を対象とした理解醸成の取組を実施。（2件）</p>
(公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構	F-REIと15市町村(イノベ地域)の連携構築に向けた取り組み状況	<p>・福島県の事業として、企画戦略室に専任のコーディネーターを配置してF-REIの成果の社会実装に向けた調査・連携構築活動を開始している。（令和5年4月）</p> <p>・F-REIの研究活動の時間軸を考慮して、以下のような方針で進めてまいりたい。</p> <p>(1)地域企業のF-REI研究開発への参画支援：  F-REIの研究開発の取組にイノベ地域企業が参画できるよう、当機構は必要に応じてF-REIとも連携して関連自治体等を訪問する等、状況と課題について調査・調整を実施中である。</p> <p>(2)人材育成事業支援：  現在、当機構は、県内外の大学等と実施している「復興知」事業を始めとする小・中・高・大学等への教育支援や、校種や地域を超えて県内全域で「ふくしまイノベ未来講座」を展開するなど未来を担う子どもたちの育成に取り組んでいる。F-REIが重点を置くと考えられる先端的な研究者の育成の取り組みと相乗効果がでるよう、F-REIとの連携を深めていく。</p> <p>(3)実証フィールド支援：  当機構は福島ロボットテストフィールドの運営を通じて、フィールド外での実証実験の支援を行うなどの取組を進めている。ロボット関連以外の分野でも実証の支援を行っており、F-REIが必要とする農林水産や医療等の様々な研究分野の実証フィールドとして活用することについてもイノベ地域全体の自治体と連携して検討して行く。</p>